



実りある異文化交流に

長寿や人権、活発議論

県内外の学生も討論



【ホノルル1日】平良吉弥「ハワイ大学構内にある東西センターの移民国際会議場で、一日午前(日本時間二日午前)から本格的な討論が始まった「第一回世界のウチナンチュ会議」。世界各国のウチナンチュや研究者、県内外とハワイ大学の学生ら約四百人が参加し、異文化交流や健康と長寿、アイナンティティ、女性の人権などさまざまな問題で活発な議論を交わした。(一面参照)

若い世代が自己のアイ流、教育などについて討論ティティや国際交

議する「異文化交流」ユースプログラムには、琉球大学やハワイ大学、東京の学生ら約五十人が出席。国際交流の意義や県系移民の歴史、文化などをパネリストの発表や講義を通して学習後、討論会で互いの意見を発表する。

世界のウチナンチュ会議で行われた「異文化交流」ユースプログラム
△米ハワイ・ホノルル市

同プログラム実行委員でハワイ大学一年の前原

綱子さん(三三)は「私たちは一人ひとりが考える自己のアイナンティティについて、互いが持つイメージを共有し、よいディスカッションができる場にしたい」と話した。稲嶺恵一県知事やジョージ・玉城ハワイ沖繩連合会会長らも次々と壇上ちによるハワイの伝統的なフラダンスとハワイ県人会による琉球古武道太鼓が披露され、踊りと方強い太鼓の音が会場に響き渡った。

らして大会の成功を